

6月2日に開催された、令和8年第3回富里市議会定例会で、行政を取り巻く現状について、以下のとおり報告しました。

現在、本市では、令和9年度から令和13年度までを計画期間とした、総合計画の中期的ビジョンである、後期基本計画の策定に取り組んでおり、市の将来像の実現に向け、都市計画道路3・4・20号成田七栄線や千葉県と連携した県道バイパス及び国際医療福祉大学方面への新たなインフラ整備を着実に進めているところでございます。

そのような中、本市の人口は、全国的に人口減少が進む中でも、平成12年に実施した国勢調査において5万人を迎え、富里市が誕生して以降、5万人前後で推移し、令和5年3月には4万9,200人台まで減少しましたが、令和8年4月末日現在において、5年ぶりに5万人に回復し、5万37人となっております。

また、全国有数のすいかの産地として、広く認知されている本市ではございますが、すいかの栽培が始まってから、今年で100年を迎えております。

千葉県の「野菜園芸発達史」にもあるように、大正15年・1926年に、十倉地区の1軒の農家が、0.5ヘクタールの畑で栽培を始め、翌年には、3軒の農家による共同栽培・共同出荷が開始されており、現在でも、検査・市場指定・計画出荷など、時代とともに形は変わったものの、「共同」は引き継がれ、「富里すいか」の土台を築き上げた大きな力となっております。

昭和11年には、富里すいかが皇室へ献上されたことで評価を得ましたが、戦時中には、作物作付統制令によって栽培面積が激減しました。

昭和23年頃から再び栽培が本格化し、昭和30年代には、富里全域に栽培が拡大したものの、連作による病害が発生し、その対策として、接ぎ木栽培が導入・普及するなど、100年の歴史の中で、幾度の難局を乗り越え、今日に至っております。

一方で、三菱社 第3代社長 岩崎久彌氏が晩年を過ごした本市唯一の国登録有形文化財に指定されている旧岩崎家末廣別邸の主屋については、昭和2年・1927年の竣工とされており、令和9年で築後100年という節目を迎えようとしています。

岩崎久彌氏が経営に携わった末廣農場では、昭和8年から、すいかの試験栽培が開始されるなど、富里すいかとの関わりが深いことから、令和9年度において、「すいか100年」と「末廣別邸主屋100年」の大きな節目を市民とともにお祝いができるよう、企画を検討する「とみさと100年プロジェクトチーム」を庁内に立ち上げるとともに、JA富里市をはじめ関係機関とも連携を図り、具体化を目指してまいります。

なお、令和8年度は、令和9年度に向け、各イベントなども活用しながら市民等への周知を図り、気運を高めてまいります。

『富里すいか100年の気運を高める取組』について

6月14日・日曜日に開催する「第43回富里スイカロードレース大会」では、「富里すいか100年おもてなし特別企画」として、レース各部門の10位・100位・1,000位のランナーに、富里すいかを1玉ずつプレゼントいたします。

また、6月21日・日曜日に開催するすいかまつりでは、会場ステージにおいて「オラキノ・マイカイみちこフラ&タヒチアンスタジオ」外4団体によるダンスなどの御披露と合わせ、フィナーレには、御来場された皆様と一体となったダンスプログラムを予定しているほか、富里ひずめ太鼓による「馬」とその歴史、すいかなどの農産物が生産される地域の特性を題材に創作された曲目の演奏を企画しております。

会場内では、JA富里市や生産者等の御協力のもと、来場者への「100年PR」を実施するほか、今後開催される様々なイベントにおいて、「富里すいか100年の歴史」を紹介したチラシを配布するなど、すいかの名産地である富里を、より多くの方に知っていただき、「富里

すいか」の更なる発展を目指すとともに、全国に「元気なまちとみさと」を発信します。

その他、8月22日・土曜日に、「ふるさと富里を想う人と人がつながる」をテーマに、WNSとみさとスマイルパーク（富里中央公園）野球場で開催する「とみちゃん夏まつり」においては、フィナーレですいか100年から100発の花火を会場に向け打ち上げ、気運醸成を図るとともに、市民に親しまれる夏祭りを目指してまいります。

なお、明日・6月3日・水曜日に市内全小・中学校10校と、市立幼稚園2園、また、酒々井町の小・中学校3校で実施を予定していた『ワクワク！富里すいか学校給食Day！』につきましては、台風の影響により延期することといたしました。

富里の農牧業に尽力した『岩崎久彌氏の銅像建立』について

令和9年の末廣別邸主屋・築後100年に向け、令和8年度は、日本の近代農牧の発展に寄与された岩崎久彌氏の功績を顕彰するため、末廣農場別邸公園内に、日本で初となる久彌氏の銅像を建立いたします。

銅像の完成は、令和9年3月を予定しており、事業費の一部については、本市初のクラウドファンディングを令和8年7月から30日間程度実施し、寄附目標額は990万円としております。

久彌氏の採算を度外視して、農場経営にかけた我が国における畜産界の改良進歩に資する農場をつくるという意味と、その功績を未来に伝える取組に御賛同いただく方々から、広く御支援を募り、多くの皆様とともに事業を推進してまいります。

銅像の建立により、本市の農業の歴史について、市民をはじめ、多くの方々に改めて知っていただく機会にもつながることから、当時の末廣農場が果たしてきた、地域の産業振興や生活基盤向上の役割を保存し、後世に継承してまいります。

『学童保育の未来設計・放課後の居場所づくり』について

令和7年12月に示された、こども家庭庁と文部科学省が連携した政府方針である「放課後児童対策パッケージ^{ニーゼロニーロク}2026」によりますと、学童クラブに登録する全国の児童数は、2030年頃をピークに約165万人と推計されており、その受け皿を確保することが目標とされております。

本市におきましては、富里小学校区及び七栄小学校区の学童クラブの需要増加に対応するため、令和8年4月から、小学校校舎を活用した「富里小学校第2学童クラブ」の通年での開設や「七栄小学校第2学童クラブ」を新規に開設するなど、待機児童対策の充実を図ってまいりました。

しかしながら、近年の児童人口が減少する一方で、共働き世帯の増加と女性の就業率の上昇により、放課後に子どもを預かる場所の必要性が高まっており、本市の学童クラブ登録児童も増加してきております。

そこで、今後の学童保育の在り方と学校施設活用の具体的な方針を策定することを目的として、令和8年

5月に「学童保育の未来設計・放課後の居場所づくりプロジェクト」を教育委員会と連携して発足し、議論を開始いたしました。

本プロジェクトでは、学童クラブの現状を分析し、先進自治体の視察を実施するなど、将来的な児童推計と子育て世帯のニーズを把握した上で、令和9年度に向け、地域の実態に即した児童の居場所づくりの方針について取りまとめられるよう、引き続き、課題の解決に取り組んでまいります。

安心して学校生活を送るための日本語初期指導

『スタートクラス』について

『スタートクラス』は、市内小・中学校に転入・編入した日本語指導が必要な児童・生徒が、「学校での過ごし方」や「サバイバル日本語」を身に付けられるよう、在籍した日から10日間、集中して日本語指導を行うクラスとして、富里南小学校をモデル校に、令和8年4月27日から開始いたしました。

私も見学してまいりましたが、2名の児童が10日間の集中授業を終え、学校探検を通して学校生活や学校施設の使い方に加え、挨拶や体調に関する日本語のほか、教室で困った時の意思表示方法などを身に付けていると強く感じたところです。

また、スタートクラスを終えた後も、児童自らが、友達や教職員へ話しかけ、毎日の学校生活を安心して過ごす素地や明るく主体的にコミュニケーションを取ることができるようになっており、日本語指導を継続しながら、在籍学級の学習にも積極的に取り組む姿が見られているとのことでした。

今後は、成果の検証を行い、市内各小・中学校への研修や会議を通じて共有するとともに、本モデル事業を市内全小・中学校へと広げ、全ての児童・生徒が安心・

安全に学校生活を送ることができるよう、引き続き、取り組んでまいります。

外国人との秩序ある共生社会の実現に向けた『外国人安全対策会議の取組』について

本市の外国人人口は、令和8年4月末日時点で4,821人、前月から0.19ポイント増加し、割合は9.63%となっていることから、4月から新たに設置した市民活動推進課外国人安全対策推進班を中心に、秩序ある多文化共生の推進を加速しているところでございます。

外国人相談窓口においては、英語・フィリピン語・インドネシア語の3言語に加え、本市に在留する外国人のうち、比率が高いスリランカ人の母国語であるシンハラ語に対応するため、令和8年度から新たな相談員を採用し、4言語に対応した相談窓口の運用を開始しております。

また、日本のマナーやルールを正しく理解して、秩序ある共生社会を実現するための「外国人のための生活マナーマニュアル」については、日本語・英語・ベトナム語・シンハラ語で作成してはりましたが、

新たに中国語も加えた5言語で対応し、今後も必要となる言語は、適宜、積極的に追加し、広く利用されるよう取り組んでまいります。

さらに、令和6年度に設置した「外国人安全対策会議」においては、これまで、成田警察署・成田土木事務所・富里市で構成しておりましたが、ヤード等の対応を強化するため、新たに、印旛地域振興事務所から委員と顧問を、また、オブザーバーとして、千葉県総合企画部国際課に加わっていただき、ヤードやヤードに類する場所において、先月・5月27日、今年度、第1回目となる外国人安全対策会議によるパトロールを実施するなど、外国人事業者への法令遵守の徹底と、ルールの啓発に努めております。

なお、ヤードやヤードに類する本市の現状と課題等については、国に対し、情報提供と合わせ、法の整備などについても要望を行っており、今後も、国や県の動向を注視するとともに、外国人安全対策会議としての活動を積極的に行い、日本人と外国人がともに安心・安全に暮らせる秩序ある共生社会を推進してまいります。

『国民健康保険制度』について

令和8年度から、段階的な保険税率の引上げと、子ども・子育て支援金制度の開始に伴い、納付額に影響が生じることから、納付額の平準化を図るため、納付回数を9回とした上で、7月中旬に納税通知書を発送いたします。

また、毎月、第4日曜日に、休日納付相談を実施しておりますが、納税通知書の発送に合わせ、7月・8月においては、実施日を増やし、被保険者の方に寄り添った丁寧な説明と、納付相談の受付を行います。

なお、先月5月には、国民健康保険制度の構造的な課題の解消や、被保険者の負担軽減に対する財政支援の拡充などについて、再度、国への要望を行うとともに、本市の現状や将来見通しなど、厚生労働省と情報共有を行ったところであり、今後も、引き続き、国や県と協議等を行ってまいります。

『スポーツ鬼ごっこで子どもたちの体力アップ』について

市内各小学校において、スポーツ鬼ごっこを令和6年度から小学1・2年生までを対象に導入し、また、令和7年度には、小学3年生まで拡大したところ、多様な動きを作る運動により、子どもたちの走力が向上するなどの成果が見られております。

一例を申し上げますと、新体力テストにおける1年生男子の50メートル走では、導入前2年間の平均が11.56秒であったところ、導入後2年間平均では11.43秒に短縮され、他の測定項目においても効果が表れています。

スポーツ鬼ごっこの指導に当たった学級担任からは、「ルールを理解した上で、コミュニケーションを取り、チーム内で作戦を考え協力していた」など、体力の向上だけでなく、活発に意思疎通を図る姿が見られたとの声があったほか、学級担任を対象としたアンケートでは、9割の担任が体力向上を実感しており、コミュニケーション能力やチームワークの向上、子どもたちの考える力などが鍛えられているとの回答をいただいております。

そこで、令和8年度は、スポーツ鬼ごっこの取組を

小学4年生まで広げ、より良い人間関係の形成と、子どもたちの将来に向けた土台作りにつながるよう、引き続き、取り組んでまいります。

『令和8年度 富里市防災訓練パッケージ』について

近年、頻繁に発生し、激甚化する自然災害などへの備えと、災害対応体制の強化を図るため、本市では、地域と行政が連携した防災訓練の充実と合わせ、令和8年度に実施する自助・共助・公助の様々な取組を「富里市防災訓練パッケージ」と位置づけ、推進しているところでございます。

まず、「共助」の充実といたしましては、自主防災組織や自治会などの地域が主催する防災訓練に、引き続き、市職員が積極的に参画するとともに、自主防災組織と本市避難所担当部局の合同による、災害発生から避難所の開設・運営までを想定した、より実践的な訓練を行ってまいります。

また、「公助」の強化では、新規職員から管理職までの幅広い階層の職員を対象に、避難所開設運営訓練や、災害対策本部運営訓練などを実施し、迅速かつ適切に対応できる更なる体制整備を図っているほか、「自助」

の促進では、平時・有事のどちらの場面でも役立ち、普段から価値を発揮するサービスを取り入れることで、平時から防災への備えができる「フェーズフリー」を推進しております。

今後も、非常時の混乱や動揺などを防ぎ、身体が自然に動くようにするには、日頃からの訓練や備えを繰り返し実践することが最も重要であることから、防災週間やイベント等を活用した防災グッズの展示や、訓練参加者などへの意識啓発活動を継続するとともに、訓練終了後には、確認・検証作業や訓練のブラッシュアップを行うなど、防災力の強化に努めてまいります。

『令和8年度 消防団の力向上モデル事業』について
総務省消防庁が、地域防災力の充実強化に向けて
取り組んでいる「消防団の力向上モデル事業」に、
本市の提案事業が令和7年度に続き、令和8年度も、
採択されました。

本事業は、消防団の充実強化につながる自治体の
取組を、全額国費の支援を受けて実施するもので、
令和8年度は、消防団員の安全性や機能性の向上を
目的として、高機能防火衣31着、背負い式消火水すいのう
31基の配備を予定しており、本定例会に補正予算案
として提出いたします。

なお、全国各地で大規模な林野火災が発生している
ことを受け、本市消防署と消防団が連携し、林野火災を
想定した消火訓練を予定しており、今後も、市民の
生命・身体・財産を守るため、消防団活動の円滑な
遂行と地域防災力の充実強化を推進してまいります。

『次代を担う人材を育成する取組』について

令和8年度の平和学習リーダー事業につきましては、5月に市内在住の中学生・高校生を対象にリーダーを募集したところ、16名の応募があり、選考の結果、中学生3名、高校生3名の合計6名を選出いたしました。

選出されたリーダーには、7月4日・土曜日に、任命書を交付した後、事前学習会を経て、8月4日から6日までの2泊3日で広島に赴き、「全国平和学習の集い」や「全国こども平和サミット」に参加し、同世代のリーダーたちと戦争や平和について、意見交換を行う予定となっております。

また、8月6日に挙行される「平和記念式典」に参列し、核兵器の廃絶と恒久平和を祈念するとともに、10月には、リーダーたちが広島での学習内容を取りまとめた報告会を開催する予定としております。

さらに、若者が地域課題の解決や主体的にまちづくりに関わることを目的とした「若者プロジェクト」については、市内在住・在学・在勤の中学生から30歳までを対象に、5月29日から6月24日まで、第6期のメンバーを募集しているところですが、

これまでのプロジェクトの活動は、年々、幅広い展開が見られ、5期生までの元メンバーの中には、自ら市民団体を立ち上げ、持続可能なまちづくりに、若い力を発揮していただいている方もおります。

今後も、多くの若い方々が参画し、新たな発想による取組が展開されていくことに期待をいたします。

『第43回富里スイカロードレース大会の熱中症 安全対策』について

本大会はこれまで、6月の第3日曜日に開催してまいりましたが、近年の高温化により、ランナーの安全・安心を第一に考え、今大会から1週間早めた第2日曜日に開催することとしております。

しかしながら、直近の気象庁発表による関東甲信越地方の天候の見通しによりますと、6月から8月までは、平年より気温が高く、蒸し暑さが早く到来すると予想されていることを踏まえ、10kmの種目に日本スポーツ協会が策定した「熱中症予防運動指針」に基づく、運動環境の指針となる「暑さ指数」を取り入れた大会運営を図ることといたしました。

指針では、暑さに弱い方や体力の低い方に対しては、暑さ指数28以上31未満が測定された場合、「熱中症の危険性が高く、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける」とされているものの、大会エントリー者については、普段走り慣れている方々に限定していることから、指数が確認された場合は、10kmの種目を7kmに短縮し、指数に達しなかった時は、10kmによりスタートいたします。

距離の判断については、大会当日、会場に設置した暑さ指数計測器により、10kmスタートの1時間前となる午前8時15分までに決定し、エントリーしたランナーに周知を行います。

なお、事前周知として、エントリーしたランナーには、個別メール及び郵送等によりお知らせしております。

今後も安全・安心して大会に御参加いただけるよう、万全の対策で大会運営に努めてまいります。